

奈良県スポーツ推進計画（案）

～ Sports for Everyone with Smile ～



平成25年3月

奈良県

第1章 計画策定の趣旨	1
・ 計画策定の趣旨	1
・ 計画の位置づけ	2
・ 計画の期間	3
・ 計画の推進体制	3
第2章 計画の理念と目標	4
・ 基本理念	4
・ 基本目標	6
第3章 施策の体系と内容	7
Ⅰ. だれもがいつでも楽しめるスポーツ	8
Ⅱ. 地域で楽しむスポーツ	15
Ⅲ. あこがれ・感動を生むスポーツ	21
Ⅳ. スポーツ環境の整備	26

第1章 計画策定の趣旨



計画策定の趣旨

奈良県では、県民一人ひとりが健康づくりに取り組み、生涯にわたり、生き活きと安心して健やかに暮らせる健康長寿な県を目指すこととしており、そのためには運動・スポーツの果たす役割が非常に重要と考えています。

運動・スポーツ※は、「する・観る・支える」ことを通して、感動や楽しみ、達成感や協調性の創出など、県民一人ひとりに様々なプラス効果が期待されます。

また運動・スポーツは、フェアプレイの精神など人格の形成や生きがいづくりなど、心身両面にわたる健康の保持増進につながるほか、生活習慣病の予防などによる医療費等の削減効果も期待されます。さらに、全国や世界で活躍するアスリートの姿は、県民に大きな夢や感動、元気を与えてくれます。

本県は、豊かな自然や地勢等を有し、運動・スポーツをするには最高の環境が整っています。こうした、地域の特性を活かした運動・スポーツの推進は、来訪者の増加のほか、関連する産業の振興にも寄与し、地域の活性化や地域の連帯感の強化にもつながります。

このように、運動・スポーツは、地域の活性化や県民が生涯にわたって健康でいきいきと暮らすうえで不可欠なものと考えています。

これらを踏まえ、本県では、今後 10 年先を見据えた奈良県スポーツ推進計画を新たに策定することとし、この計画に基づき、本県のスポーツ推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施していくこととします。

※ 本計画においては、次のように概念を整理します。

- ・ 「運動」とは、「自らの意思あるいは意図に基づいて身体を動かすこと」をいい、例えば、「健康のため一駅前から歩く」、「自宅でストレッチなどの体操をする」、「自転車に乗って少し遠出をして買い物に行く」なども運動といえます。
- ・ 「スポーツ」とは、「ルールに基づき運動を行うこと」をいいます。

運動・スポーツを取り巻く環境

近年、複雑・多様化する社会、利便性優先の社会のなかで、運動・スポーツをする機会や場の減少、体力・運動能力の低下、精神的ストレスの増加が問題となっています。

また、生活習慣病に対する医療費の増大は大きな課題であり、予防に向けた適度な運動・スポーツの推進を図ることが必要です。

そのような中、平成 23 年、スポーツ振興法が 50 年ぶりに全面改正され、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、すべての人々の権利」と前文に明記され、スポーツを取り巻く現代的課題を踏まえたスポーツ基本法が制定されました。さらに平成 24 年にはスポーツ基本法に示された理念の実現に向けた「スポーツ基本計画」が策定され、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となって施策を推進するための重要な指針として位置付けられています。

「奈良県スポーツ推進計画」の策定

奈良県では、これまで、平成 17 年に、スポーツ振興法に基づく「奈良県スポーツ振興計画」を策定し、平成 21 年には、これに健康づくりのための「運動」の視点を加えた「なら運動・スポーツ振興プラン」として改訂を行い、市町村及びスポーツ関係団体等と連携を図りながら、運動・スポーツの振興に努めてきました。

このたび、運動・スポーツの推進に、県民全体で取り組むための指針として、これまでの振興プランからさらなる一歩を踏み出す新たな「奈良県スポーツ推進計画」(以下「本計画」といいます。)を策定することとしました。

本計画は、「生き活きと安心して健やかに暮らせる健康長寿の奈良県」の実現を目指し、生涯にわたり、県民のだれもが、いつでも、どこでも、運動・スポーツに親しめる環境づくりに向けて、本県の運動・スポーツを総合的に推進するための基本となる計画です。

計画の位置づけ

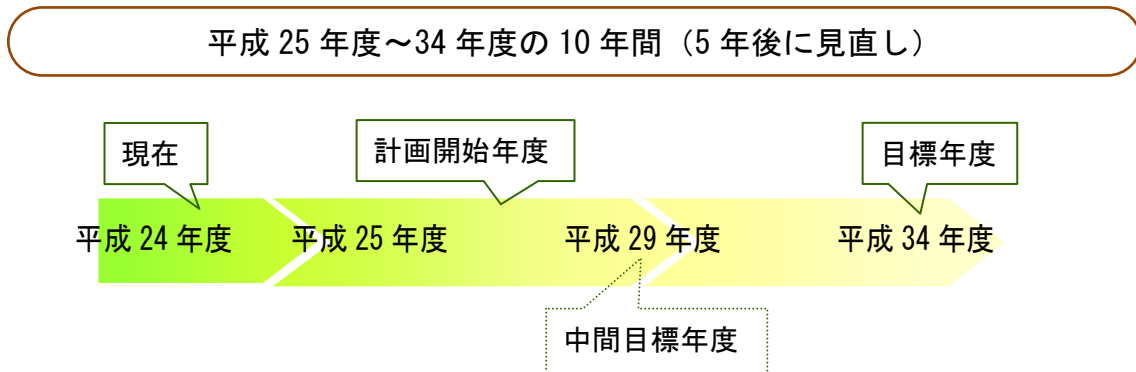
本計画は、スポーツ基本法及び国の「スポーツ基本計画」の趣旨及び方向性を踏まえ、本県の実情に合わせて策定するものです。

また、10 年後における県民の健康寿命の日本一達成を目指そうとする「(仮称)なら健康長寿総合計画^{※1}(現在策定中)」と整合を図りながら、県民の運動・スポーツの推進のために取り組む内容を明らかにしたものです。

本計画は、市町村、学校、スポーツ関係団体、企業、地域など多様な主体と連携・協働し、県民全体で運動・スポーツの推進に取り組む方向性を示したものです。また、地域の次代を担う子どものために地域教育力の向上を目指す「奈良県地域教育力サミット^{※2}」での協議内容とも整合を図るものとします。

計画の期間

本計画は、平成25年度から10年間を見据え、目標年度を平成34年度とし、社会情勢や県の取組みの状況などを踏まえ、5年後に見直しを行うこととします。



計画の推進体制

本計画の推進に当たっては、市町村、学校、スポーツ関係団体、企業、地域など多様な主体と連携・協働し、県民全体で取り組む必要があります。

本県においては、スポーツ振興行政全般を掌るくらし創造部が中心となり、関係部局間の連携を図りながら、本計画を推進します。また、県と市町村、民間等の連携を強化するため、新たに「(仮称)県・市町村スポーツ推進協議会」の設置やスポーツコミッションなど民間レベルによる推進体制の構築、検討を進めることにより、県全体でスポーツの推進に取り組みます。

本計画に掲げた施策を進めるに当たっては、計画(Plan)→実行(Do)→評価(Check)→見直し(Action)というマネジメントサイクルを踏まえ、奈良県スポーツ推進審議会において、本計画の進捗状況を確認しながら具体的な取組みに反映させていきます。

施策の実現に向けて、毎年度「運動・スポーツ実施状況」等の調査を実施し、運動・スポーツ実施状況等を把握、評価・分析し、事業等の見直しを行いながら、本計画を効果的に推進します。

※1 (仮称)なら健康長寿総合計画:関連7計画の一つに本計画を位置付けている。

※2 奈良県地域教育カサミット:平成23年度から開催。奈良県における行政、経済、教育の各分野における代表者が一堂に会して、奈良県における教育の今日的な課題について幅広い視点から討議し、新しい奈良県の教育に資するため開催する。

第2章 計画の理念と目標



基本理念

本計画は、奈良県民が気軽に運動・スポーツに取り組むためのマスタープランとして、奈良県全体で運動・スポーツを推進し、「生き活きと安心して健やかに暮らせる健康長寿の奈良県」の実現を目指します。

<目指す姿>

生き活きと安心して健やかに 暮らせる健康長寿の奈良県

Sports for Everyone with Smile



目指す姿の実現に向け、本計画では、「だれもがいつでも楽しめるスポーツ」「地域で楽しむスポーツ」「あこがれ・感動を生むスポーツ」「スポーツ環境の整備」の4つを基本戦略として、運動・スポーツの推進に取り組みます。

また、10年後における県民の健康寿命の日本一達成を目指そうとする「(仮称)なら健康長寿総合計画」と連動させながら事業を推進します。

I. だれもがいつでも楽しめるスポーツの推進

健康長寿の礎となる健康体力の向上と、スポーツを通じて人格形成や青少年の健全育成を図るため、障害があるないに関わらず、すべての人が運動・スポーツをしたい時に、どこでも、気軽に楽しむことができる環境づくり・仕組みづくりに取り組みます。

II. 地域で楽しむスポーツの推進

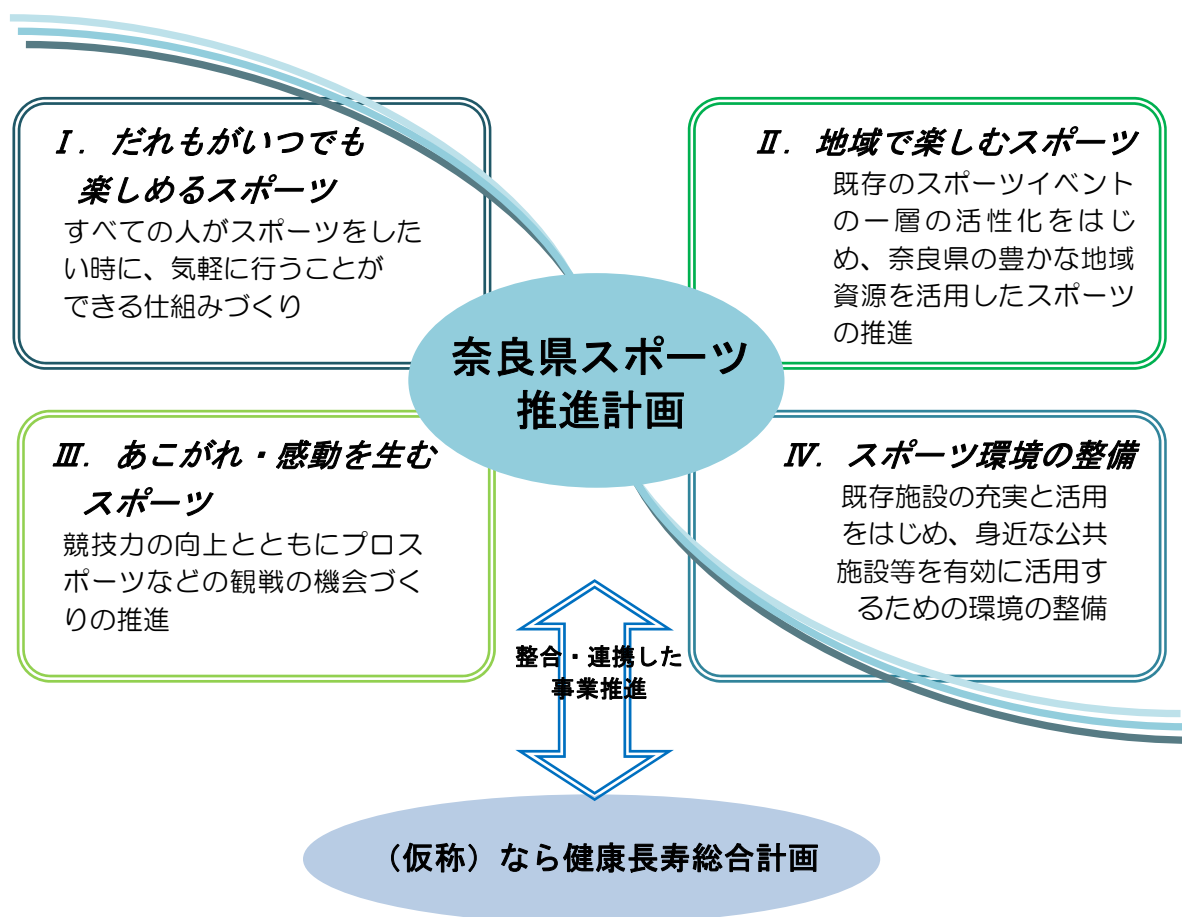
明るく豊かで活力に満ちた地域社会の実現に向けて、スポーツイベントの一層の活性化をはじめ、奈良県の豊かな地域資源を活かした地域で楽しむスポーツを推進します。

III. あこがれ・感動を生むスポーツの推進

県内外で活躍できるスポーツ選手を育成する体制の整備を進め、競技力の向上を図るとともに、スポーツの裾野を広げるために、人びとにあこがれと感動を与えるプロスポーツなどの観戦の機会づくりに取り組みます。

IV. スポーツ環境の整備の推進

だれもがいつでも運動・スポーツに親しめるよう、既存施設の充実と活用を図るとともに、身近な公共施設等を有効に活用するための環境整備などを進めます。



基本目標

「だれもが、いつでも、どこでも運動・スポーツに親しめる環境づくり」を基本目標として、県民全体で運動・スポーツの推進に取り組みます。

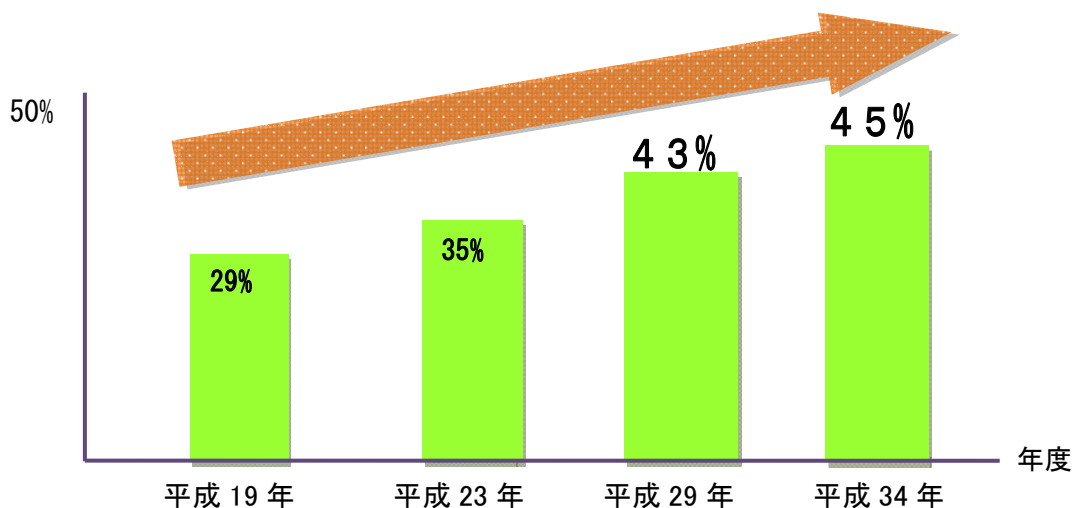
- ◆だれもが…世代を超えて、高齢者の方や子育てに忙しいお母さんや、また、障害のある人もない人も、だれもがスポーツに取り組める環境づくりを目指します。
- ◆いつでも…学校での体育の時間やスポーツクラブで過ごす時間だけでなく、休日や平日も、夜でもやりたいときにスポーツができる環境づくりを目指します。
- ◆どこでも…通勤途中や散歩の時間でも、わざわざスポーツ施設に向かなくても、近くの公園など、まち中でスポーツを親しめる環境づくりを目指します。

<基本目標>

だれもが、いつでも、どこでも 運動・スポーツに親しめる環境づくり

【基本目標を実現するための参考指標】

1日30分以上の運動・スポーツを週2回以上実施し、
1年以上継続している人の割合



※ 平成 19 年、平成 23 年については、「県民健康栄養調査」によるもの。

第3章 施策の体系と内容



ここでは、4つの基本戦略における施策体系と展開方向について整理し、実際に取り組んでいくうえでの体制や目標年次を掲げます。

4つの 基本戦略

I. だれもがいつでも楽しめるスポーツ

II. 地域で楽しむスポーツ

III. あこがれ・感動を生むスポーツ

IV. スポーツ環境の整備



I. だれもがいつでも楽しめるスポーツ

現状と課題

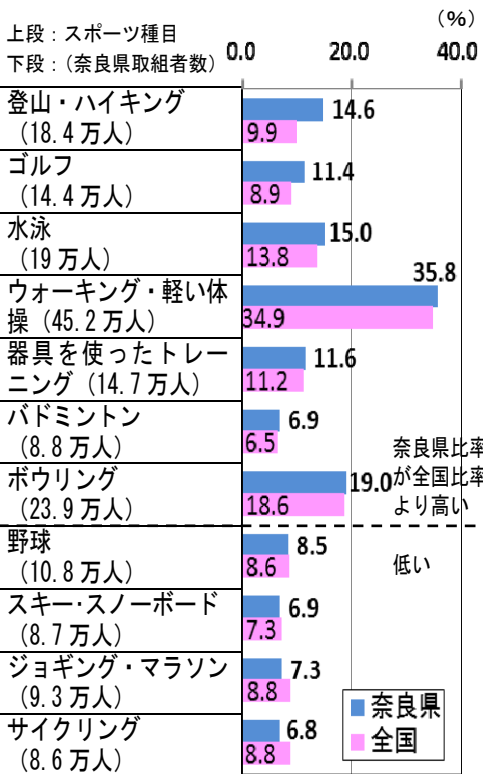
県民すべてが運動・スポーツを楽しむ環境づくり

近年我が国においては、健康長寿の最大の障害要因となる生活習慣病の抑制に向けて、健康づくりのための運動・スポーツが積極的に進められています。

生涯にわたって健康・体力の維持・増進を図るには、継続的な運動・スポーツが有効な方法の一つです。

また奈良県でも、医療費の抑制や社会の活性化のために、健康・体力の増進が必要不可欠な条件といえます。

しかし、平成 24 年度に実施した県民アンケートでは、「運動・スポーツを行っていない」とする人が過半数を占めています。その要因として、仕事や育児による忙しさのほか、身近に場所や施設がない、機会がないなどが挙げられていることから、運動・スポーツを楽しむ環境や機会の提供が重要となっています。



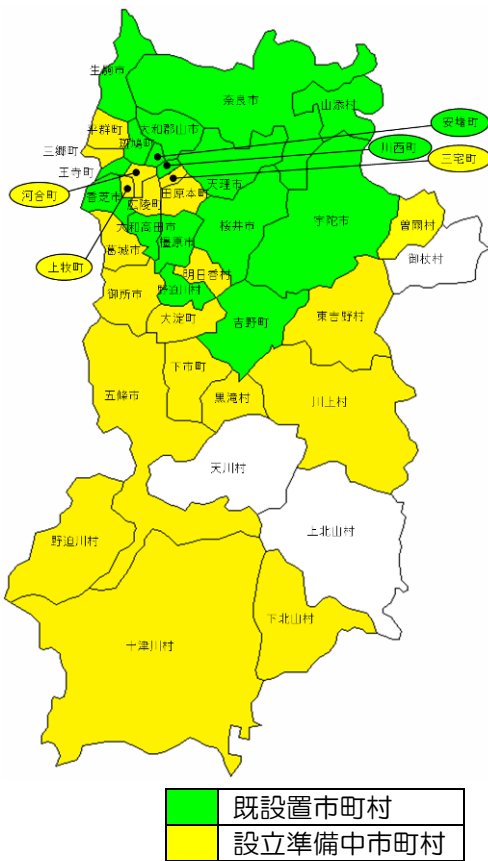
各世代における運動・スポーツ習慣の普及

運動・スポーツは、爽快感、達成感、仲間との連帯感などの精神的充足や楽しさ、喜びをもたらします。心身の健全な発達や人格形成、健康・体力の増進に寄与し、生きがいや交流を生み出すなど、人びとが運動・スポーツに生涯にわたって親しむことはきわめて有意義です。

子どもから高齢者までだれもが、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも安全にスポーツに親しむことができる生涯スポーツの推進が求められており、各世代における運動・スポーツ習慣の普及・定着が課題となっています。

◆国民および奈良県民のスポーツ行動者比率 (%) (主なもの抜粋)

資料：総務省「平成 18 年 社会生活基本調査」



◆総合型地域スポーツクラブ
設置状況
(平成24年10月現在)

総合型地域スポーツクラブの育成・充実

地域において気軽にスポーツを楽しむことのできる場として、総合型地域スポーツクラブがあります。

総合型地域スポーツクラブは、以下の特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されています。

- ① 子どもから高齢者まで(多世代)
- ② 様々なスポーツを愛好する人々が(多種目)
- ③ 初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる(多志向)

平成24年6月現在、総合型地域スポーツクラブは、全国で3,396が活動中で、奈良県では36市町村内で55クラブが活動していますが、活動内容の充実を図ることや、総合型地域スポーツクラブに関する積極的なPRが課題となっています。

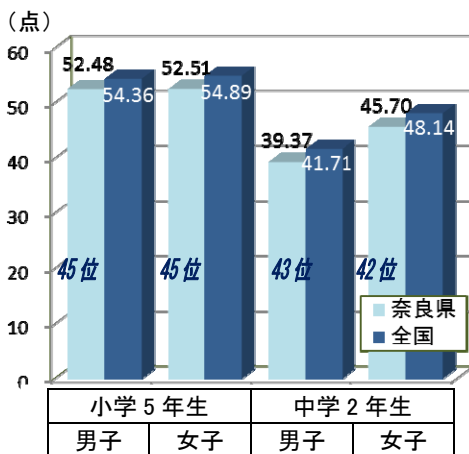
子どもの体力の向上

未来を担う子どもたちが、自然の中で身体を動かし、運動を好きになることは重要です。スポーツを通して、相手を思いやる気持ちやルールを守るなど、子どもたちの規範意識や連帯意識を醸成し、心身の健全な発達と人格形成を促すことが必要です。

奈良県の児童生徒の体力は、平成22年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査※3」では、小学校5年生で男子45位、女子45位、中学校2年生で男子43位、女子42位という状況です。

また、平成24年度の運動部活動加入率も中学生で62.9%、高校生で42.7%にとどまっています。

こうした状況を改善するためには、幼児期や学童期の頃から運動・スポーツに親しむ機会をもち、体を動かす楽しさを体験させることが大切と考えられます。そのためには、学校や地域活動を通じて、運動・スポーツへの参加や観戦の機会を提供することが求められています。また、運動部活動と地域スポーツの連携を図り、相互の活性化と充実が求められています。



◆平成22年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果奈良県と全国の比較

資料:文部科学省「平成22年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」



さらに、子どもの体力向上を実現するには、運動・スポーツに対する保護者の意識の変容が重要であることから、親子で様々な運動・スポーツに触れ、体験するほか、子どもたちの心身の健全な発達のために運動・スポーツが不可欠であることを知る機会を提供するなど、運動・スポーツの重要性についての保護者の理解と子どもの体力向上に向けた協力を得るための取組が必要です。

目 標

世代を超えて、また、障害のあるなしにかかわらず、すべての奈良県民が、自分がやりたいときにはいつでも、運動・スポーツを楽しむことができる場所や機会の提供を目指します。

【指標と目標数値】

指 標	現状 (平成 24 年度)	5 年後 (平成 29 年度)	10 年後 (平成 34 年度)
総合型地域スポーツクラブの 会員数	10,355 人	35,000 人	70,000 人
総合型地域スポーツクラブ数	55 クラブ (36 市町村)	100 クラブ	150 クラブ
スポーツ指導者 (日体協公認)	2,751 人	3,200 人	4,000 人
1 日に 1 時間以上、運動・スポ ーツをする児童(小学 5 年生) の割合*	45%	50%	55%
1 日に 1 時間以上、運動・スポ ーツをする生徒(中学 2 年生) の割合*	67%	70%	75%

※奈良県児童生徒の体力テスト調査

※3 全国体力・運動能力、運動習慣等調査：文部科学省が抽出した学校において、指定の学年(小学校第 5 学年、中学校第 2 学年)の全児童生徒を対象として全国的な抽出調査を行う。握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走(20mシャトルラン)など実技 8 種目と質問紙調査による。

施策の展開方向

奈良県においては、「生き活きと安心して健やかに過ごせる健康長寿の奈良県」の実現にあたり、その阻害要因である生活習慣病を抑制するため、これまでも健康づくりのための運動・スポーツの推進を図ってきました。しかし、運動・スポーツを行っていない人は、過半数を占める状況にとどまっています。

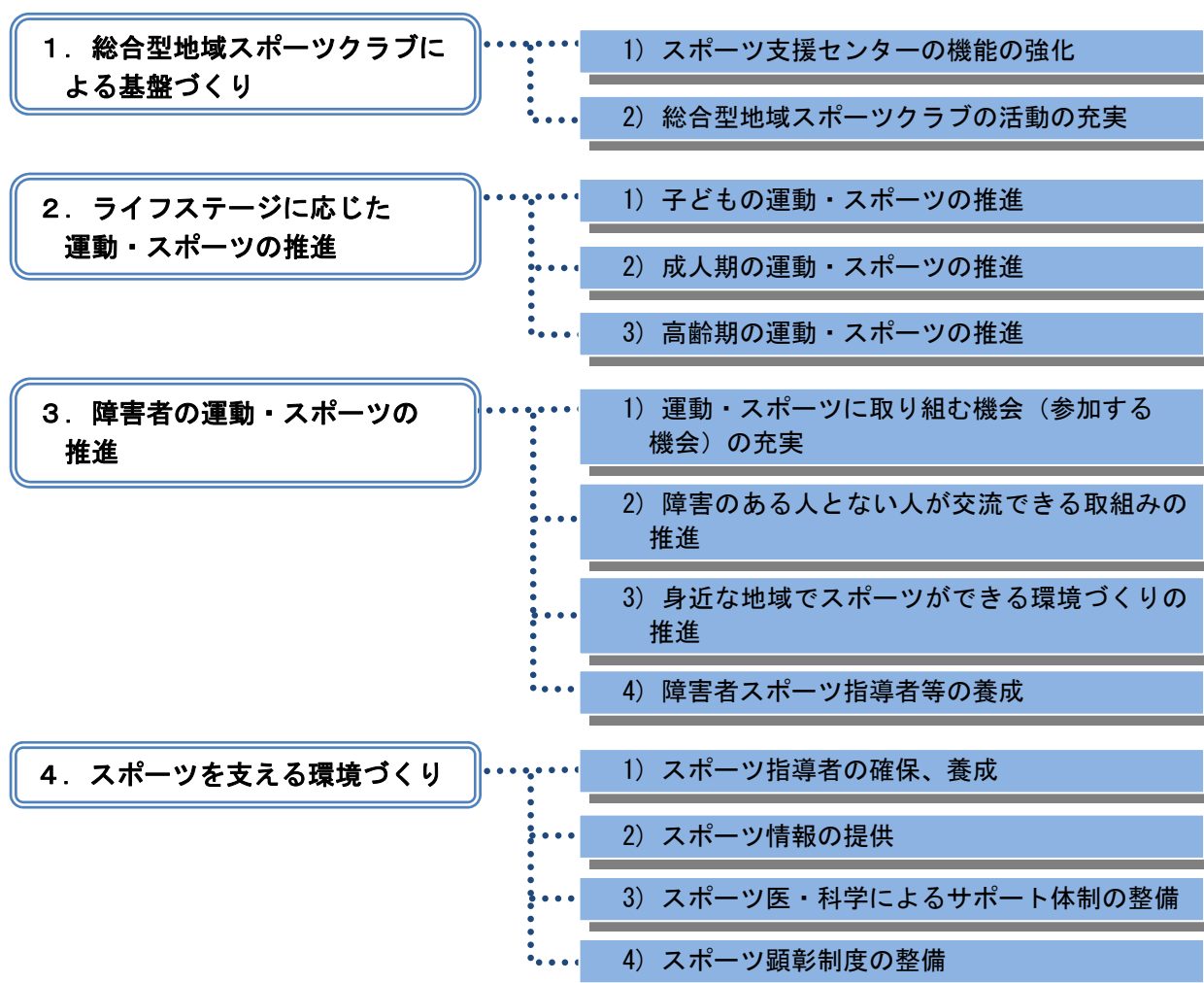
そこで、「生き活きと安心して健やかに過ごせる健康長寿の奈良県」の実現への第一歩として、運動・スポーツを行う「きっかけづくり」が重要となることから、「だれもが、いつでも、運動・スポーツに親しめる環境づくり」の一環として生涯スポーツの推進が求められています。

このため、地域において、だれもがいつでも気軽にスポーツを楽しむことのできる場をつくるため、「総合型地域スポーツクラブによる基盤づくり」に取り組みます。

また、子どもの体力向上と各世代における運動・スポーツ習慣の普及のために、「ライフステージに応じた運動・スポーツの推進」に取り組みむとともに、障害のある人もない人も、運動・スポーツを楽しむことができる環境の整備を進めます。

さらに、スポーツ指導者の養成やスポーツ情報の提供などにも取り組みます。

施策の体系



だれもが いつでも 楽しめる スポーツ

基本施策

1. 総合型地域スポーツクラブによる基盤づくり

◇ スポーツ支援センターの機能の強化

総合型地域スポーツクラブの全県展開に向けた設立・育成を推進するため、支援活動を行う職員を拡充するなどスポーツ支援センター機能を強化し、総合型地域スポーツクラブを支える人材育成や交流大会などのイベント支援、運動・スポーツ情報の提供を進めます。

◇ 総合型地域スポーツクラブの活動の充実

総合型地域スポーツクラブ活動の充実のため、各クラブの連携による交流大会の開催など、クラブ活動の質の向上、運動部活動との連携や学校体育施設の有効活用、スポーツ・レクリエーション活動の支援に取り組みます。

2. ライフステージに応じた運動・スポーツの推進

◇ 子どもの運動・スポーツの推進

幼児期からの遊びを通じた運動習慣づくりをはじめ、運動・スポーツを始めるきっかけづくり、学校での体育・保健の充実と運動部活動の充実、子どもの体力づくりに向けた食育の推進、野外活動やスポーツ・レクリエーション活動の推進、総合型地域スポーツクラブによる取組みなどを通して、子どもの運動・スポーツを推進します。

さらに、親子で体験できるスポーツイベントの実施など、学校や地域で親子が気軽にスポーツに親しめる環境を整えます。

◇ 成人期の運動・スポーツの推進

運動・スポーツに取り組む機会として、奈良マラソンやナイトランなどのイベントのほか、総合型地域スポーツクラブによる取組みなどを通して、成人期の運動・スポーツを推進します。

◇ 高齢期の運動・スポーツの推進

高齢者が運動・スポーツに取り組むきっかけづくりとして、地域におけるラジオ体操による健康づくりやスポーツ大会等のイベントの拡充のほか、高齢者の生きがいづくりや介護予防事業との連携により、高齢期の運動・スポーツを推進します。



だれもが いつでも 楽しめる スポーツ

3. 障害者の運動・スポーツの推進

◇ 運動・スポーツに取り組む機会（参加する機会）の充実

障害のある人が障害種別や程度にかかわらず、運動・スポーツに取り組めるよう必要な配慮・支援を行うなど、障害のある人がスポーツに親しみ、スポーツを楽しむ機会の充実を図ります。

◇ 障害のある人とない人が交流できる取組みの推進

障害のある人とない人が、共に参加してスポーツを楽しむことにより、相互の交流を深めることができるよう、誰もが参加できる内容のスポーツイベントの開催など、交流のための取組みを進めます。

◇ 身近な地域でスポーツができる環境づくりの推進

障害のある人が身近な地域で運動・スポーツをすることができるよう、総合型地域スポーツクラブによる障害者の運動・スポーツの取組みを支援し、障害者が身近な地域で、日常的に運動・スポーツができる環境づくりを進めます。

◇ 障害者スポーツ指導者等の養成

障害のある人が運動・スポーツを行う際に、障害特性を理解し、障害種別や程度に応じた技術的な指導・助言を行うことができるスポーツ指導者の養成及びその指導力の向上を図ります。併せて、障害のある人の運動・スポーツへの参加を支援するボランティアの育成・資質向上を図り、障害のある人の運動・スポーツ活動を支える体制の充実を図ります。



だれもが いつでも 楽しめる スポーツ

基本施策

4. スポーツを支える環境づくり

◇ スポーツ指導者の確保、養成

スポーツ指導者やレクリエーション指導者の資質向上や、専門分野に応じたサポート体制の整備、指導者人材バンクの設置など、スポーツ指導者の確保、養成に取り組みます

◇ スポーツ情報の提供

スポーツ施設情報、スポーツプログラム(イベント・教室・大会等)、トレーニング情報、地域で活動しているクラブやグループ情報など、運動・スポーツに関する情報を一元的に提供するシステムの構築に取り組みます。

◇ スポーツ医・科学によるサポート体制の整備

スポーツドクター、管理栄養士、トレーナー等による支援体制の構築やドーピング防止教育、スポーツ歯科の重要性を啓発するなど、専門機関との連携を図り、スポーツ医・科学によるサポート体制の整備に取り組みます。

◇ スポーツ顕彰制度の整備

地域スポーツ活動の顕彰などをはじめ、スポーツ顕彰制度の整備に取り組みます。



II. 地域で楽しむスポーツ

現状と課題

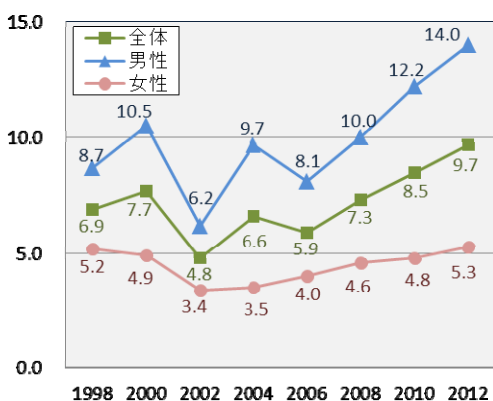
スポーツイベントによるスポーツ活動への参加促進

平成24年における笹川スポーツ財団の全国調査によると、成人のジョギング・ランニング人口は推計で1,000万人を超え、第1回東京マラソン(2007)開催以降増加傾向にあり、マラソンブームといわれる状況がみられます。

奈良県においても、平成22年から「奈良マラソン」が開催され、県民の参加者も回数を重ねるごとに増加しているほか、全国から多数の参加エントリーがあります。これらマラソンブームの影響などを受け、近年、沿道でジョギング・ランニングを楽しむ多くの県民の姿を見受けることができます。

このほか、県内では、「桜井市ウォーキングフェスティバル」「山岳グランfondin吉野」などのスポーツイベントが開催されており、他府県からも多くの人に参加しています。

このように、多くの人々がスポーツに触れ、その楽しさや喜びを体験することのできるスポーツイベントを積極的に実施することにより、県民が気軽にスポーツ活動に参加できる機会を拡充していくことが重要となっています。



◆年1回以上のジョギング・ランニング実施率

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査報告書(1998~2012)」より

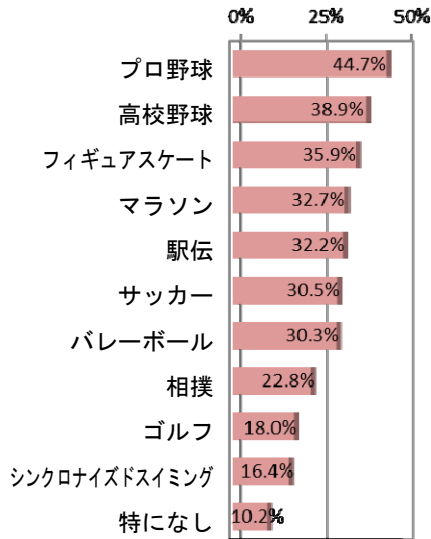
◆平成24年「奈良マラソン2012」<参加者>

種目	人数
マラソン(42.195km)	11,406人
10km	4,771人
ジョギング(3km)	1,204人
合計	17,381人 (奈良県民7,434人 その他9,947人)

<ボランティア参加数(2日間延べ人数)>

種目	人数
一般(個人、グループ、ファミリー)	803
団体	2,443
高校	709
行政その他	684
合計	4,639

資料: 奈良マラソン実行委員会



◆日本人がよく観戦するスポーツ

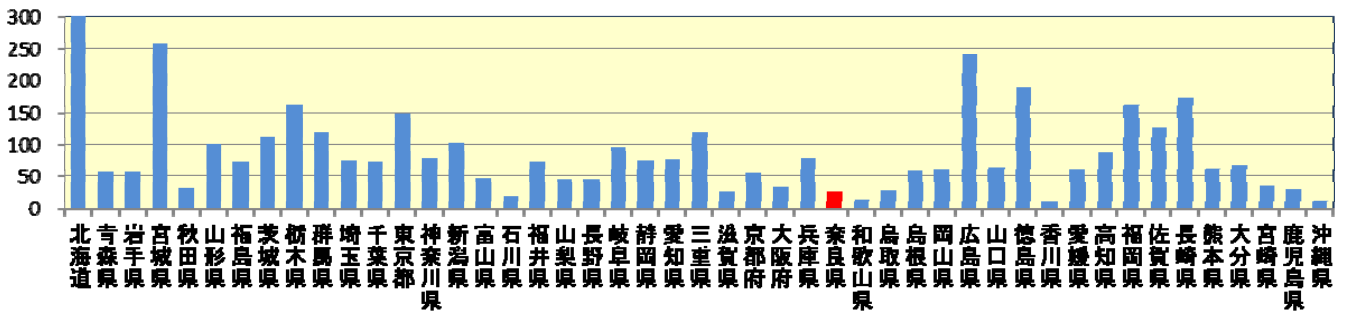
資料: NHK 放送文化研究所調査をもとに作成(平成 19 年 3 月調査、全国 16 歳以上 3600 人対象)

観るスポーツの振興

平成 24 年はロンドンオリンピックが開催され、これを契機に、多くの人たちがスポーツへの関心を高めました。トップアスリートの活躍は人々に感動を与え、スポーツへの夢やあこがれを抱かせます。

しかし、奈良県における 1 世帯あたりの 1 ヶ月のスポーツ観戦支出指標は 27.8 と低く(全国平均=100)、スポーツを観る機会があまり多くないことがわかります。

奈良県において大きなスポーツイベントを招致できる施設が不足していることと相まって、気軽にスポーツを観ることのできる環境整備やスポーツイベントを積極的に誘致していくことが求められます。



◆1 世帯(二人以上)あたりの 1 ヶ月スポーツ観戦支出指標(全国平均: 100)

資料: 平成 21 年度全国消費実態調査

スポーツイベントによる地域の活性化

近年、我が国においては、観光立国の実現に向けた取組みが積極的に進められており、スポーツとツーリズムの融合であるスポーツツーリズムへの関心も高くなっています。

奈良県は、豊かな自然、起伏のある地勢、美しい風景や歴史的な景観、文化財をはじめとする観光資源等を多く有しています。

このため、これらの資源を活かしたウォーキングやトレイルラン、サイクリングのヒルクライムやロングライドなどのスポーツイベントの開催により、宿泊を伴うスポーツツーリズムにつなげることで、さらに地域の良さを知っていただき、来訪者を呼び込むことで、地域の活性化につなげることが期待されます。



トレイルランの様子
(場所: 十津川村内の熊野古道小辺路)

目 標

自らが生活している地域においてスポーツに気軽に触れられるよう、積極的に「する」「観る」「支える」スポーツを楽しむことができる人の増加につながる環境整備を進めます。

【指標と目標数値】

指 標	現 状 (平成 24 年度)	5 年後 (平成 29 年度)	10 年後 (平成 34 年度)
スポーツイベントの参加者数 (総合型交流大会)	1,149 人	5,000 人	10,000 人
「奈良マラソン(フルマラソン)」 に参加する奈良県民の人数	3,868 人	4,300 人	5,000 人

施策の展開方向

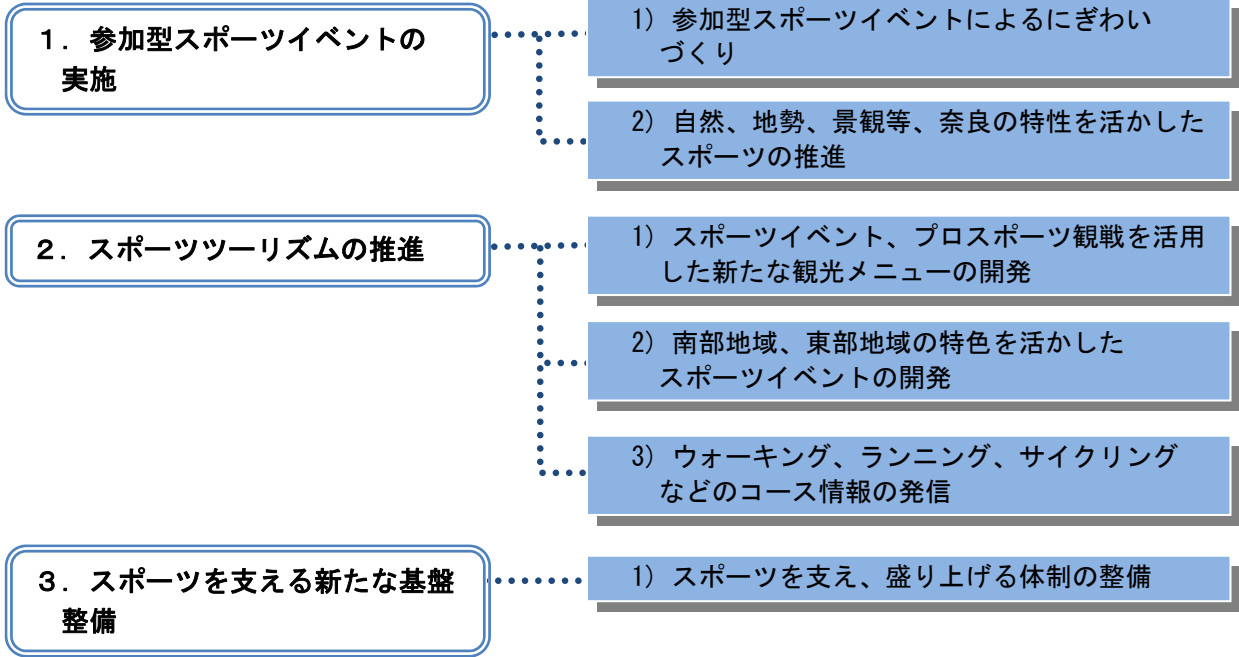
参加型スポーツイベントは、「スポーツの楽しさや喜びを体験、実践する場を提供し、スポーツを地域に根付かせることができる」「スポンサーやボランティアなど、スポーツの支援に興味を持つ新たな支援者との連携につながる」「子どもがスポーツへのあこがれを抱き、スポーツを始めるきっかけになる」などの効用があることから、積極的に実施に取り組み、地域の振興や活性化を図ります。

また、奈良の新たな魅力を掘り起こすものとして、スポーツツーリズムの推進に取り組み、地域の振興や活性化を図ります。



奈良マラソンでの地元幼稚園応援団

施策の体系



ヒルクライムの様子



奈良マラソンの様子

基本施策

1. 参加型スポーツイベントの実施

◇ 参加型スポーツイベントによるにぎわいづくり

新たなスポーツイベントの実施や既存イベントの充実、スポーツを通じた交流イベントの開催など、スポーツの楽しさや喜びを体験し、実践する場を提供する参加型スポーツイベントによる地域のにぎわいづくりや活性化を進めます。

◇ 自然、地勢、景観等、奈良の特性を活かしたスポーツの推進

ウォーキング、トレッキング、ジョギング・ランニング、クロスカントリー、サイクリング、カヌーなど、自然、地勢、景観等、奈良の特性を活かしたスポーツイベントの実施を進めます。

例えば、豊かな自然、起伏のある地勢を活かしたヒルクライムやロングライドなどのサイクルイベントの実施により、宿泊を伴うスポーツツーリズムにつなげることで、地域の活性化を図ります。

2. スポーツツーリズムの推進

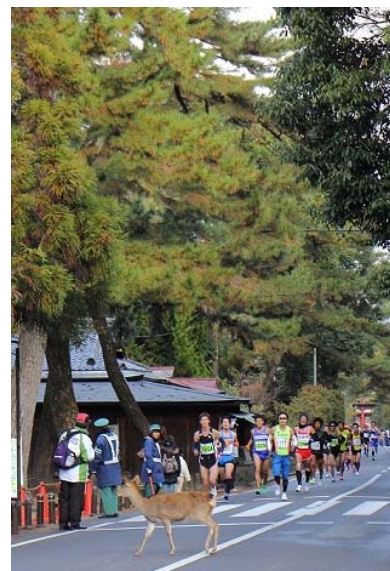
◇ スポーツイベント、プロスポーツ観戦を活用した新たな観光メニューの開発

奈良マラソンやサイクルスポーツなどの魅力あるスポーツイベントやスポーツ観戦を活用した新たな観光メニューの企画に取り組み、スポーツツーリズムを推進します。

◇ 南部地域、東部地域の特色を活かしたスポーツイベントの開発

南部地域の豊かな自然、起伏のある地勢、美しい風景、東部地域の広い高原といった特色を活かし、南部・東部地域ならではのサイクルスポーツやアウトドアスポーツイベントを実施することや、スポーツ合宿を誘致することで、スポーツによる地域の活性化を図ります。

地域で 楽しむ スポーツ



地域で楽しむスポーツ



◆サイクリングマップ

「奈良まほろばサイク∞リング」
資料：奈良県HP「自転車利用総合案内サイト」

基本施策

◇ ウォーキング、ランニング、サイクリング等による観光の振興

ウォーキング、ランニング、サイクリング等による観光振興や地域活性化に向け、奈良の新たな魅力を掘り起こすため、コースガイドブックの作成やコース情報の発信に取り組みます。

また、奈良県では、自転車による広域的な周遊観光を促す環境づくりを推進することで、自転車ならではの新たな観光スタイルを創出し、県内における滞在型観光の拡大による観光振興や、来訪者の増加による地域活性化を図ります。

3. スポーツを支える新たな基盤整備

◇ スポーツを支え、盛り上げる体制の整備

地域のスポーツ活動やイベント運営に関わるスポーツボランティアの育成のほか、リーダー組織の検討など、スポーツを支え、盛り上げる体制の整備を進めます。

また、スポーツツーリズムによる地域の活性化を目的とするスポーツコミッションなど、民間レベルによる推進体制の構築、検討を進めます。



Ⅲ. あこがれ・感動を生むスポーツ

現状と課題

◆国民体育大会順位

開催年	場所	天皇杯	皇后杯
S59	奈良	1位	1位
S60	鳥取	13位	23位
S61	山梨	13位	38位
S62	沖縄	12位	28位
S63	京都	23位	25位
H 1	北海道	30位	30位
H 2	福岡	28位	33位
H 3	石川	27位	26位
H 4	山形	34位	31位
H 5	東四国	27位	24位
H 6	愛知	26位	26位
H 7	福島	31位	32位
H 8	広島	31位	25位
H 9	大阪	27位	18位
H10	神奈川	33位	24位
H11	熊本	38位	33位
H12	富山	30位	33位
H13	宮城	33位	32位
H14	高知	35位	28位
H15	静岡	29位	29位
H16	埼玉	37位	36位
H17	岡山	32位	36位
H18	兵庫	25位	42位
H19	秋田	28位	35位
H20	大分	33位	41位
H21	新潟	33位	43位
H22	千葉	35位	43位
H23	山口	35位	38位
H24	岐阜	35位	38位

競技力の向上に向けたスポーツ指導者の確保、養成

アスリートの活躍は人びとに夢と感動を与えるとともに、スポーツへの関心を高め、スポーツを始めるきっかけにもなります。また、奈良県出身のアスリートの活躍は、県民の郷土への誇りにつながります。

平成24年に開催された第67回国民体育大会「ぎふ清流国体」における奈良県の成績は、総合35位であり、近年の総合成績はやや低迷している状況です。

これまで奈良県では、柔道競技におけるオリンピック金メダリストの輩出など、武道での活躍をはじめ、陸上、水泳、ホッケー、ボクシング、自転車、ソフトテニス、馬術、ラグビー、レスリングなどの種目において国内外でトップレベルの競技力を維持しています。今後も、これらの競技力の維持・向上を図ることにより、ロンドンオリンピックで金メダルに輝いたボクシング競技 村田諒太選手のようなトップアスリートの育成が期待されます。

競技力の向上にあたっては、スポーツ指導者の確保、養成をはじめ、キッズ・ジュニア期からの選手強化体制の整備が求められます。さらに、科学的な分析に基づく効果的なトレーニング方法の指導や集中的・継続的にトレーニングを行うことができる拠点の整備が求められます。



スポーツを「観る」機会の創出と プロスポーツが生まれる環境づくり

トップレベルのスポーツを「観る」ことは、多くの人々に勇気や感動を与え、スポーツを始めるきっかけとなるなど、スポーツの裾野の拡大、ひいてはスポーツ界の活性化につながります。とくに、子どもたちがトップアスリートの試合を身近に観戦し、指導を受けることは、スポーツに取り組むきっかけとなるとともに、より高いレベルを目指す意欲にもつながる点で貴重な体験になります。

奈良県は、これまでプロスポーツチームがなく、トップレベルのスポーツ大会の開催も限られていましたが、bjリーグに参入するプロバスケットボールチーム^{※4}の創設が平成25年度に予定され、県下プロスポーツ第一号として注目を集めることが期待されています。また、サッカー「奈良クラブ」がJリーグ参入を目指して活躍しています。

プロスポーツの試合やトップレベルの大会の誘致によるスポーツを「観る」機会の創出や、地域・企業等との連携によるプロスポーツが生まれ育つ環境づくりが課題となっています。



ロンドンオリンピック(2012)金メダリスト
村田諒太選手(奈良県出身)
写真提供：東洋大広報課

目 標

スポーツの素晴らしさを肌で感じ、スポーツに対する夢やあこがれを抱くことができるよう、奈良県を代表するスポーツ選手を育成するとともに、プロスポーツを誘致する環境を整備します。

【指標と目標数値】

指 標	現状 (平成24年度)	5年後 (平成29年度)	10年後 (平成34年度)
国体の総合成績	35位	30位台前半	20位台
プロスポーツ等の試合数 (有料観戦)	5試合	30試合	60試合

※4 奈良初プロバスケットボールチームとして、Bambitious Nara(バンビシャス奈良)が、平成25年シーズンより、bjリーグに参入予定。

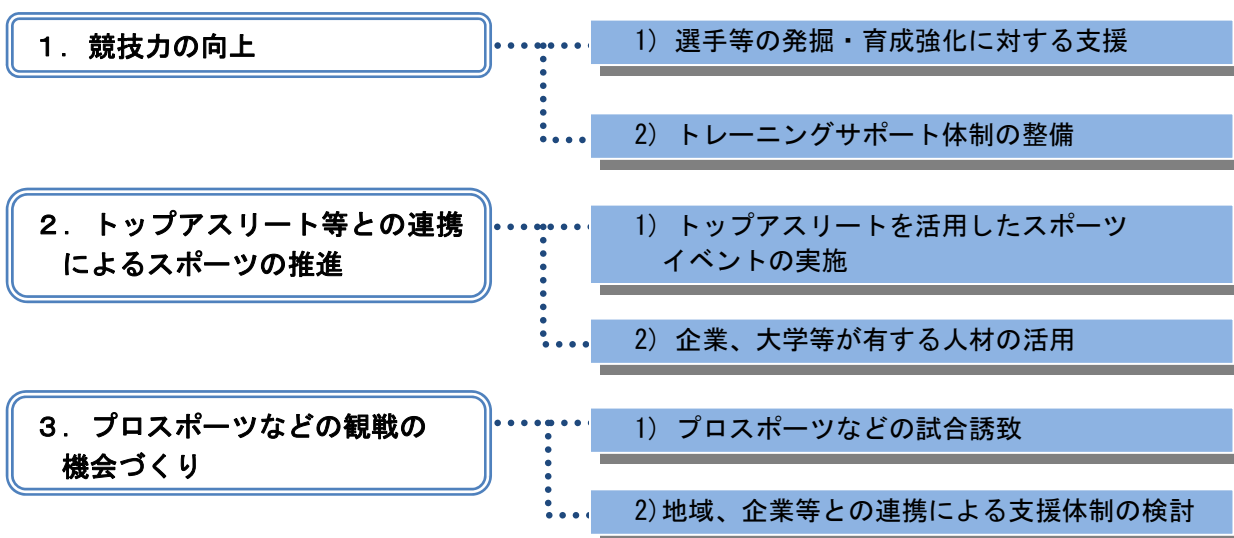
施策の展開方向

スポーツは、人間の精神、技術、体力の可能性の限界に挑戦する営みであり、アスリートが競技に取り組むひたむきな姿は多くの人々に勇気や感動を与え、スポーツへの関心を高めるなど、明るく活力ある社会づくりに貢献しています。このため、今後も選手等の育成強化に対する支援など、「競技力の向上」に取り組みます。

また、未来を担う子どもをはじめ、多くの人がスポーツへの夢やあこがれを持てるよう、また、スポーツを始めるきっかけづくりとなるよう、「トップアスリート等との連携によるスポーツの推進」に取り組みます。

さらに、スポーツを「観る」機会を創出し、スポーツ活動への参加を促すなどスポーツの裾野を広げるほか、地域のにぎわいづくりや活性化につなげるため、「プロスポーツなどの観戦の機会づくり」に取り組みます。

施策の体系



あこがれ・ 感動を生む スポーツ

基本施策

1. 競技力の向上

◇ 選手・指導者等の発掘・育成強化に対する支援

トップアスリートとなる可能性を秘めた人材の発掘、ジュニア期から成人期までの一貫指導体制の構築、トップアスリートによる指導や海外選手と接する機会づくり、学校の運動部活動の活性化と地域のクラブ活動との連携、練習環境の整備など、選手・指導者等の発掘・育成強化に対して支援を行うことにより、競技力の向上を図ります。

◇ トレーニングサポート体制の整備

奈良県のジュニア選手(中学生・高校生)たちが、奈良県を拠点として全国や世界で活躍することを目指し、県内選手の育成・強化、指導者の養成・資質向上機能、スポーツ医・科学などの機能を備えた地域トレーニングセンターの構築を大学などとの連携により取り組みます。



2. トップアスリート等との連携によるスポーツの推進

◇ トップアスリートを活用したスポーツイベントの実施

未来を担う子どもをはじめ、多くの人がスポーツへの夢やあこがれを持てるよう、また、スポーツを始めるきっかけとなるよう、トップアスリートを活用したスポーツ教室やスポーツイベントの実施に取り組みます。

◇ 企業、大学等が有する人材の活用

地域のスポーツ環境の充実に向け、トップアスリートと総合型地域スポーツクラブとの連携や、企業・大学等有する人材の活用に取り組みます。



基本施策

3. プロスポーツなどの観戦の機会づくり

◇ プロスポーツなどの試合誘致

トップレベルの試合や大会など、スポーツを「観る」機会を創出するため、プロスポーツの試合、大学や社会人のスポーツ大会等の誘致を進めます。

◇ 地域、企業等との連携による支援体制の検討

スポーツによる地域のにぎわいづくり、活性化を図るため、プロスポーツが生まれ育つ環境づくりに向けた、地域、企業等との連携によるスポーツコミッションなど、民間レベルによる推進体制の構築、検討を進めることにより、スポーツを支え、盛り上げる体制の整備を進めます。

あこがれ・
感動を生む
スポーツ

奈良県初開催bjリーグ公式戦

IV. スポーツ環境の整備

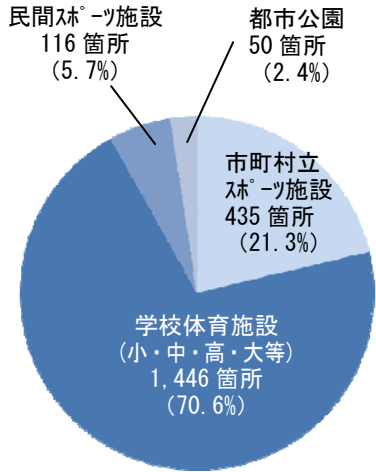
現状と課題

身近なスポーツ環境の整備

奈良県内に設置されている体育・スポーツ施設の総数は 2,047 で、このうち7割以上(1,446)が小学校・中学校・高校などの体育施設です(平成 24 年 3 月現在)。

このため、学校体育施設について地域スポーツの拠点としての有効活用を図るほか、川辺、公園、歩道など身近な公共施設等を活用したスポーツ環境の整備が求められます。

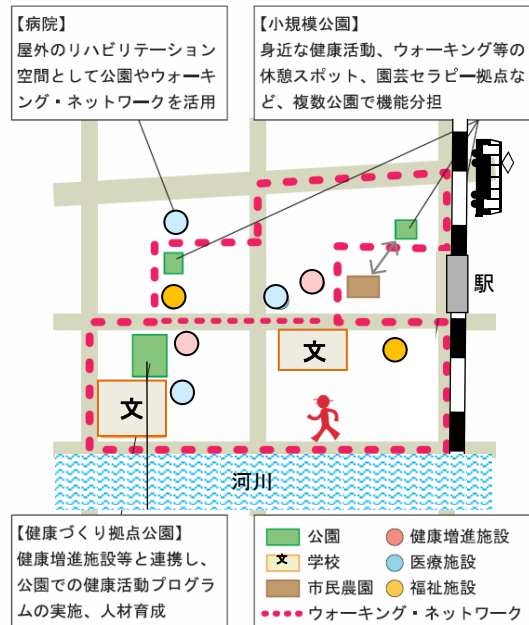
奈良県は、なだらかな丘陵が多く、ウォーキングやジョギングなどの運動に最高の環境が整っています。身近にこのような環境がある奈良県では、まち中で運動・スポーツに取り組める環境を整備することにより、だれもがいつでも運動・スポーツに親しみやすい環境づくりを進めることが重要です。



全 2,047 箇所

◆県内の体育・スポーツ施設の設置状況

資料：奈良県スポーツ振興課調査 (H24.3.21)



◆まち中でのスポーツ環境整備イメージ

資料：(一社)日本公園緑地協会「公園を核としたすこやか健康まちづくり」イメージ図に一部加筆

既存スポーツ施設の計画的な改修の推進

奈良県では、橿原公苑本館にジョギング＆サイクリングステーションを整備(平成25年春オープン予定)するなど、既存スポーツ施設の機能充実に取り組んでいます。

また、県内のスポーツ施設のうち、全国大会などの大規模な大会が開催可能な機能を有する施設は限られており、既存スポーツ施設の機能向上など、施設の計画的な改修が課題となっています。



橿原公苑ジョギング＆サイクリングステーション(イメージ図)

新たなスポーツ施設の研究

まほろば健康パーク(奈良県浄化センター公園)内では、スイムピア奈良(新県営プール)が整備(平成26年7月オープン予定)されており、新たなスポーツ拠点施設としての活用が期待されます。

今後は、「する・観る・支える」ことを通して、感動や楽しみを体験できる、プロスポーツの試合や全国大会レベルの大会の開催が可能なスポーツ施設など、新たな施設の整備に向けた研究が求められています。



新たな施設のイメージ



スイムピア奈良のイメージ

目 標

既存施設や学校体育施設等の有効活用をはじめ、身近に運動・スポーツに取り組める施設や設備の整備を進めることにより、「だれもがいつでも楽しめるスポーツ」の環境づくりを目指します。

施策の展開方向

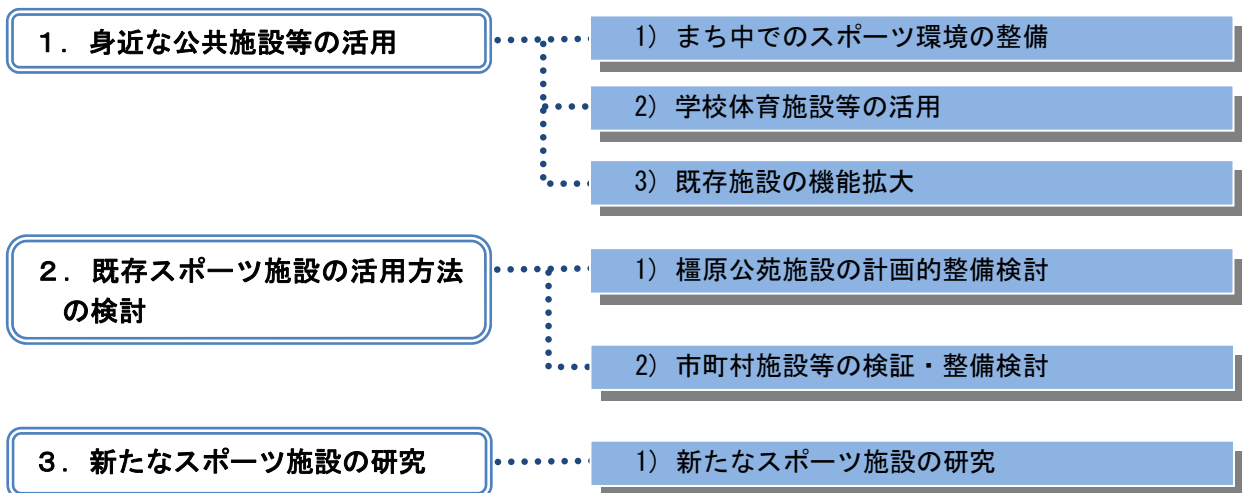
気軽に運動・スポーツができる環境を整えるために、川辺、公園、歩道など「身近な公共施設等の活用」に取り組みます。

ファシリティマネジメントの観点も踏まえ、利用者の利便性を図り、既存施設を有効に活用し、また、施設の長寿命化を図るため、整備計画や管理運営手法の検討を行い、檀原公苑や市町村施設等の「既存スポーツ施設の計画的改修」の検討を平成 25 年度中に進めます。

また、プロスポーツやトップレベルの試合を誘致することにより、スポーツを「観る」機会を創出します。

さらに、全国レベルの大会の開催により、競技スポーツの振興を図るため、上記「既存スポーツ施設の計画的改修」の検討と併せ、平成 25 年度中に「新たなスポーツ施設の研究」に取り組みます。

施策の体系



1. 身近な公共施設等の活用

◇ まち中でのスポーツ環境の整備

学校周辺の歩道や川辺、公園など、身近な公共施設や民間施設を活用、整備することにより、まち中におけるスポーツ環境の整備を検討します。

例えば、歩道の段差解消、街灯や距離表示の設置など、ウォーキングやジョギングをまち中で楽しめる環境を整備します。

◇ 学校体育施設等の活用

有効かつ効率的な学校体育施設の開放など、地域スポーツの拠点として、学校体育施設等の活用を図ります。

◇ 既存施設の機能拡大

県内施設の有効活用を図るため、県と市町村が連携して既存施設の機能充実を進め、利用者の利便性を考慮した施設の利用促進を図ります。



まち中で昼休みに運動をする人

2. 既存スポーツ施設の活用方法の検討

◇ 橿原公苑施設の計画的整備検討

既存スポーツ施設を有効に活用するため、橿原公苑全体の整備計画の策定など、既存施設の計画的改修の検討を進めます。

◇ 市町村施設等の検証・改修

市町村施設を含めた県内スポーツ施設の現状を分析し、奈良県にとってもっとも効果的なスポーツ施設のあり方を検証します。

また、必要に応じて、改修・整備構想を検討の上、計画的な改修を進めます。

3. 新たなスポーツ施設の研究

◇ 新たなスポーツ施設の研究

スポーツを「観る」機会の創出や競技スポーツの振興、また地域の活性化を図るため、プロスポーツの試合や全国レベルの大会の開催とあわせて、文化、芸術、コンベンション、会議等の多目的な利用が可能なアリーナや、Jリーグの試合が可能なスタジアム等、新たなスポーツ施設の研究に取り組みます。